

八田川の改修及び地蔵川の排水機場整備の促進に向けて国土交通省を訪問

12月21日に国土交通省を訪問し、八田川、地蔵川の河川整備に関する意見交換を行ってきました。

平成23年9月に発生した台風15号による豪雨では、八田川下流において約1kmにわたり堤防を越水、併せて八田川と立体交差する地蔵川でも洪水が溢水しました。これにより、工場19棟を含む99戸において最大1.5mもの床上浸水が発生し、浸水面積でも100haを越える甚大な被害を受けました。さらに、平成25年、26年にも地蔵川沿川では床上浸水が発生しています。



八田川の越水による浸水状況

この浸水被害を契機に愛知県では抜本的治水対策として、立体交差部で下を流れる地蔵川の洪水の一部を“八田川を経由して庄内川へ排水する排水機場を整備”するとともに上を流れる八田川においては

“地蔵川からの排水を受け入れても安全な堤防を整備”する河川整備計画を策定し、事業を進めているところです。

しかし、この事業が速やかに進むためには国の財政支援が必要であることから、愛知県建設部長、春日井市長を始めとする行政、国会議員、県議会議員、市議会議員・副議長のみなさまとともに、国土交通省を訪れた次第です。

当日は、石井啓一国土交通大臣を始め国土交通省の幹部のみなさまに状況を説明し、石井大臣からは前向きな発言を頂くことができました。

完成まで時間がかかるとても大きな事業ではありますが、八田川、地蔵川周辺のみなさまの不安が一日も早く解消されるまで、関係者と力を合わせて取り組みます。



石井国土交通大臣、伊藤春日井市長と

ひび挑戦！ 春日井マラソンに参加

1月8日に開催された第35回新春春日井マラソンの10kmの部に参加しました。春日井マラソンは新年の“走り初め”として参加される方が非常に多く、今回は北海道から九州まで8,565人の参加で大変盛り上がりしました。私自身は今年で6回目となる中、年々練習が疎かになり、今回はほぼ“ぶっつけ本番”という状態での参加となりました。途中、苦しい場面も多々ありましたが、沿道、ランナーのみなさまから大変多くの激励を頂きました。足を止めることなく完走できたのは、みなさまのおかげです。また、大会運営にはのべ800名を超えるボランティアの方のご協力がありました。本当にありがとうございました。



この辺りはまだ余裕でした



下記住所に事務所を構えておりますので、お気軽にお立ち寄りください。

住所 春日井市中央台6-7-4
電話 0568-70-0594
FAX 0568-70-0580
HP <http://www.hibi55.com/>



日比たけまさ県政レポート 第23号

発行元: 日比たけまさ事務所 春日井市中央台6-7-4 TEL: 0568-70-0594 発行責任者: 日比 たけまさ

2017年スタート

昨年末に原田マハ著「本日は、お日柄もよく」という小説を読みました。累計30万部を超える小説で、1月にはWOWOWにて連続ドラマ放映もされましたので、ご存知の方もいらっしゃるかと思います。

物語は、ひよんなことから普通のOLが「政権交代」を叫ぶ野党のスピーチライターに抜擢される話で、私自身、この小説で「スピーチライター」という仕事の中身を初めて知りました。オバマ前大統領の「Yes, We Can」や安倍首相の「アベノミクス」など、誰もが耳にしたことのあるフレーズもスピーチライターが生み出したものです。

政治家のスピーチライターが主役という「仕事小説」ではありますが、とても素敵な文章が散りばめられ、涙もこみ上げる感動的なお話でした。

もちろんフィクションです。しかし、小説の一場面、政権交代を目指す緊迫した国会内での与党「新進党」と野党「民衆党」の党首討論において、「我々「民衆党」の目指す政治は、国民ひとりひとりの命、ひとつひとつの生活と「まっすぐに」向き合う政治です」と野党党首が力強く発するシーンでは身震いがしました。言葉だけで人の心を鷲掴みにする「言葉の持つ力」というものを、強く強く感じるとともに、私自身、言葉だけではなく行動が伴うよう、強い気持ちをもって今年1年あたりたいと思います。

今年も“ひび挑戦”よろしくお願いいたします。



原田マハ著「本日は、お日柄もよく」

12月定例議会開催

愛知県12月定例議会は、12月1日～12月20日まで開かれました。今議会では、総額約209億円の補正予算と条例関係ほか29件の議案が提案され、可決成立いたしました。

補正予算の内容は、国の補正予算に関連する事業費として、土地改良、農地防災事業や道路、港湾整備といった公共事業、児童養護施設、障がい者支援施設等に対する防犯対策強化に資する助成、抹茶の輸出拡大、次世代林業基盤づくりを始め県産農林水産物の競争力強化のための助成などがあります。

その他、放課後子ども教室の整備促進、認知症に理解の深いまちづくり～オレンジタウン構想の推進に関する調査、県営名古屋空港の隣に本年11月30日オープン予定のあいち航空ミュージアムの展示コンテンツの整備、PFI導入による平針の運転免許試験場の整備などの予算に加え、愛知県国際展示場条例の制定や本年4月1日より県営朝宮公園を春日井市に移管するための条例改正も成立しました。

また、民進党愛知県議員団から提起した骨髄移植ドナー支援制度の創設を求める意見書ほか、運転中の『ポケモンGO』等の規制を求める意見書、駅からの転落事故を防ぐホームドア設置促進などを求める意見書など、「命を守る政治」にかかわる意見書を全会一致で採択し、国などに送付しました。



地域と学校が一体となって取り組んでいる「熊本市宇城市立松合小学校 放課後子ども教室」の様子



4月1日より春日井市に移管される県営朝宮公園

代表質問 河合 洋介 政調会長(阿久比町・東浦町選出 2期)

《Q》 骨髄バンク事業と骨髄バンクドナー支援事業について

《知事》 従来からの啓発活動に加え、今年度、新成人や高校1年生にドナー登録を呼びかけ、若い世代への啓発を強化している。また、ドナーが骨髄提供をしやすい環境づくりが重要であると認識している。市町村や都道府県が骨髄提供の際の助成制度を設けるなど、経済的な支援を行うことが有効であり、本県として研究を進めたい。加えて、自治体や一部の企業等が導入しているドナー休暇制度をさらに普及させていくため、経済団体を通じて企業等に同制度の普及を働きかけていく。



民進党大学「白血病と骨髄移植を考えるパネルディスカッション」

《Q》 児童相談所の体制強化について

《知事》 児童虐待の相談対応や一時保護の件数は年々増加するとともに、相談内容も複雑、困難な事案が多くなっており、児童相談センターの体制強化は急務である。そこで、本年9月に機能強化検討委員会を立ち上げ、今後より一層

の強化を図るべく、児童福祉司、児童心理司等の必要な人員を確保していく。さらに、弁護士による相談体制の充実を図るとともに、児童福祉司に対する研修内容の充実や国の研修への派遣を通じて、専門性や資質の向上を図っていく。このように量と質の両面から児童相談センターの更なる体制強化を図り、児童虐待防止対策にしっかりと取り組んでいく。

《Q》 教員の多忙化解消について

《教育長》 11月29日に「教員の多忙化解消に向けた取組に関する提言」が取りまとめられた。教員が教科指導を始めとする本来業務に専念しつつ、研鑽を積むことのできる環境を整えていくことは、学校の設置者、任命権者としての責務であり、県教育委員会として、今回の提言を重く受け止めている。この提言を踏まえ、今年度中に、多忙化解消に向けた県の計画を策定し、保護者や地域の方々を始め、広く県民の御理解を得ながら、市町村教育委員会、学校とも協力し実行に移していく。



教員の多忙化解消プロジェクトチームの会議風景

一般質問

水素社会実現へ愛知がリードを

中村すすむ議員(豊田市、3期)は平成29年度に策定される「あいち低炭素社会づくり戦略」の考え方、その中で化石燃料依存から脱炭素社会をめざす上での水素エネルギー活用必要性を提案した。

県は、「愛知の強みである企業の高度な環境技術と県民の高い環境意識を生かした視点を戦略づくりに取り入れるとともに、2027年のリニア開業に向け、今後多くの社会インフラ整備が続くことも視野に入れ、経済と環境の調和をめざす」と答弁。

また、水素社会の実現に向けては「民間企業と連携した中部国際空港での燃料電池バスの運用の検討、港湾

地域でのトレーラー、大型コンテナを運搬する荷役用車両の燃料電池化など、新たなビジネスモデルの調査を進めていく。日本一の産業県である愛知が、引き続き全国をリードしていく」との答弁があった。



水素ステーション

その他の一般質問

久野 哲生 議員(名古屋市南区選出 3期)

耕作放棄地対策、学校における薬物乱用防止、無電柱化対策について

浅井 よしたか 議員(豊橋市選出 3期)

東京2020オリンピック・パラリンピック開催から、リニア開業後を見据えた愛知そして東三河の観光戦略・地域づくりについて

西久保 ながし 議員(岡崎市選出 2期)

愛知総合工科高等学校専攻科、技能五輪・アビリンピック全国大会及び国際大会、介護・生活支援ロボットについて

おおたけ りえ 議員(豊川市選出 1期)

東三河の農業振興、中小企業の人材育成・人材確保、音響信号の設置、学校施設や設備の老朽化への対応について

委員会関係

建設委員会とともに私が所属している名古屋競輪組合議会について紹介します

今年度、私は通常の議員活動とは少し離れた「競輪組合議員」の活動もさせて頂いています。なぜ、愛知県議会議員が競輪組合の議員になっているのか疑問に思われる方や、競輪事業になじみのない方もお見えかと思うので、以下、概要を記載させていただきます。なお、私自身は今回、初めて競輪に携わった“素人”です。

名古屋競輪組合は、地方自治法第284条の規定に基づき、愛知県と名古屋市により昭和24年6月28日に設立された一部事務組合(※1)で、自転車競技法に基づく競輪事業の実施と競輪場の設置及び維持管理を行っています。そして組合の議決機関として議会があり、愛知県議会議員8名及び名古屋市会議員8名、計16名によって構成されます。競輪場は名古屋市中村区の中村公園内にあり、議会も同施設内で行われます。



名古屋競輪場で初めて開催された高松宮記念杯競輪(G1)

娯楽が多様化した今日、競輪事業は全体的に低迷しており、20年前に全国で84あった競輪場は、現在、約半分の43にまで減少しています。名古屋競輪場においても昭和40年代から50年代にかけては年間入場者数が100万人を超えていましたが、現在では10万人程度とピーク時の1割程度に、また車券発売額でも平成4年の722億円をピークに減少の一途を辿り、現在では100億円台と低迷しています。なお、

名古屋競輪場の運営は現時点において黒字経営がなされているものの、競輪事業全体の流れを鑑みると、安閑としてはられない状況です。

12月27日に開かれた議会では平成28年度補正予算と平成27年度決算の認定が議題となるなか、私は競輪事業の活性化について9点質問をしました。質問に先立ち、名古屋競輪場の現状を私なりに調べたうえで、岐阜競輪場や千葉競輪場にも足を運び、関係者の話を伺い、また、素人ながらに感じたファンサービスの充実について確認しました。

私が「競輪事業は低迷が続いているものの、一定のニーズがあり、今こそ生き残りをかけ踏ん張らなければならない。『売上向上』、『来場者サービス』にさらに力を入れ、その際には『お客さま目線』、『現場の声』をより強く意識した運営を望む」と発言すると、管理部長から「これまで経費節減策を徹底して行ってきたが、今後はファンサービスの充実という点に力を入れていきたい」との答弁が返ってきました。今後をしっかりと注視していきたいと思います。

※1 地方自治法に基づき、都道府県や市町村が、事務の一部を共同で処理するために設ける特別地方公共団体。



リオパラリンピック銀メダリスト田中まい選手が優勝したガールズ競輪(千葉競輪場)